

K A W A K A M I D A M 2006
川上ダム通信 9月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

地域でつなぐ安全運転のバトンタッチ
～川上ダム建設所に「安全運転管理推奨像」を設置～

交通安全宣言

私ども事業所は、安全運転管理推奨事業所として積極的に各種交通安全活動を進め、交通事故防止に尽くし、他の模範となるよう努力することを宣言します。

平成18年9月26日

独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所長 恒吉 徹



平成18年9月26日（火）に「安全運転管理推奨像」引継式が若島伊賀南部安全運転管理協議会長、渥美名張警察署長以下の出席のもと、川上ダム建設所で行われました。

この推奨像制度は、伊賀南部安全運転管理協議会と名張警察署が行う交通事故防止活動の取組みの一環で、所轄管内に所在する各事業所がこの推奨像を次々とバトンタッチしていき、交通安全自主活動の推進と交通安全に対する啓発を行うものです。

これは平成元年から始まっており、平成18年秋の交通安全運動週間から年末の交通安全週間までの3ヶ月間、川上ダム建設所が受け持つことになりました。

これを受け当建設所では、声高らかに「交通安全宣言」を行い、昨今の社会的問題となっている飲酒運転の防止や交通安全啓発に取り組むことにより、「地域に根ざした地元の一員としての川上ダム建設所」の責任をしっかりと果たしていきます。

【総務課長 上村信幸】



安全運転管理推奨像の引継



川上ダム建設所職員全員で参加した引継式

昨年に引き続き、普通救命講習会を実施

去る9月1日（金）、川上ダム建設所では朝から本番さながらの防災訓練を行いました。さらに、午後からは、地元の伊賀南部消防組合の消防士の方々を講師に招いて、「普通救命講習会」を行いました。講習会は地域貢献の一環として、工事施工業者や事務所食堂賄い員の方などにも参加していただきました。

普通救命講習会では、三角巾の使い方やAED（自動体外式除細動器）を使った救命作業について指導を受けました。最初は作業の手順に戸惑い、大きな声での確認に照れながら作業を行っていましたが、徐々に熱のこもった真剣な講習となりました。最後に、一人一人が修了テストを行い、参加者全員が修了証書をいただくことができました。

【工務課 富行穂】



8月から事務所に設置しているAED



左写真：普通救命講習会の様子

右写真：AEDの使用法を教わる川上ダム職員

《環境学習会》廃棄物の発生抑制・リサイクル促進の重要性を再認識

8月25日（金）、特定非営利活動法人地域リサイクル推進機構の町田輝次専務理事を講師に招いて、「ダム建設におけるゼロ・エミッション※）への取り組みについて」と題して、職員及び工事関係者を対象とした環境学習会を開催しました。

学習会では、地球温暖化、資源枯渇、最終処分場・処理不足から見たリサイクルの必要性や、産業廃棄物の不法投棄の多くが建設廃棄物で占められているといった問題からみた関係法令や地域条例の遵守について解説していただいた後、各地で行われているリサイクルの取り組み事例を紹介していただきました。

講演後の質問も活発に行われ、職員及び工事関係者の一人一人が、廃棄物の発生抑制やリサイクルの促進の重要性を再認識することができました。ゼロ・エミッションを実現するためには、使用資材の把握や徹底した分別と合わせて、発生材の利用などにおいて地域との連携が大切であると感じました。

【環境課 北村ゆき子】



上写真：講義風景

下写真：質問も活発に行われました



※）ゼロ・エミッションとは

ある産業の製造工程から出る廃棄物を別の産業の原料として利用することにより、廃棄物の排出（エミッション）をゼロにする循環型産業システムの構築を目指すもの。国連大学が提唱し、企業や自治体で取り組みが進んでいる。

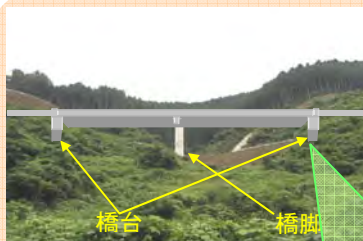
地元の方への事業説明会を実施



事業説明会の様子

9月24日(日)にダムサイトと隣り合わせている桐ヶ丘地区の皆様に対して、平成18年度川上ダム建設事業説明会を開催しました。この説明会は、平成15年度から毎年実施しているものです。

当日は、西山自治会長、松永副支所長からの挨拶に始まり、恒吉川上ダム建設所長から今年度の事業の現況等について説明をした後、担当者から今年度行われる工事の予定等の説明を行いました。説明会には、100名を越す住民の皆様が参加され、活発な質問・意見が出されました。【第一用地課 川部信夫】



川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線4号橋下部工(A2)工事

6月号で紹介しました4号橋下部工(A2)工事の進捗状況をお知らせします。

工事場所は、急傾斜で作業スペースが少ないため施工には苦労しましたが、8月末には橋台部の掘削作業が終了し、現在、橋台の基礎となる直径2m、深さ8~10mの深礎杭を2本掘削中で、杭の長さ(深さ)は岩盤を確認し決定し、安全確実な基礎とします。

深礎杭施工後は、橋台のコンクリートやブロック積等の施工を行い、12月初めまでに工事を完了させ、その後の橋梁上部工の施工に引継ぎます。【工事課 望月登】

上写真：4号橋完成予想図
下写真：深礎杭掘削状況(H18.9.29撮影)



第3回

ちよつとオオサンショウウオ!

~お玉杓子!??~

「オタマジャクシはカエルの子~♪」・・・では、オオサンショウウオの子は? オオサンショウウオもカエルも、同じ両生類。オオサンショウウオの子どもも、オタマジャクシによく似ています。ただし、ふ化したときには既に足が付いていますが(写真「幼生」)。

オオサンショウウオの卵(1回の産卵で300~600個)は、産卵後40~50日でふ化するので、10月中にはふ化します。ふ化直後のオオサンショウウオの“オタマジャクシ”は、体長が3cmくらいで、体の色はほとんどのものが黒色です。この“オタマジャクシ”が、大人になると、体の色も茶褐色に変わり黒い斑点が出てきて、体長がおよそ20倍にもなるのです。このような大人になれるのは、果たして何匹くらいなのでしょうね(写真「成体」)。【環境課長 大村朋広】



幼生



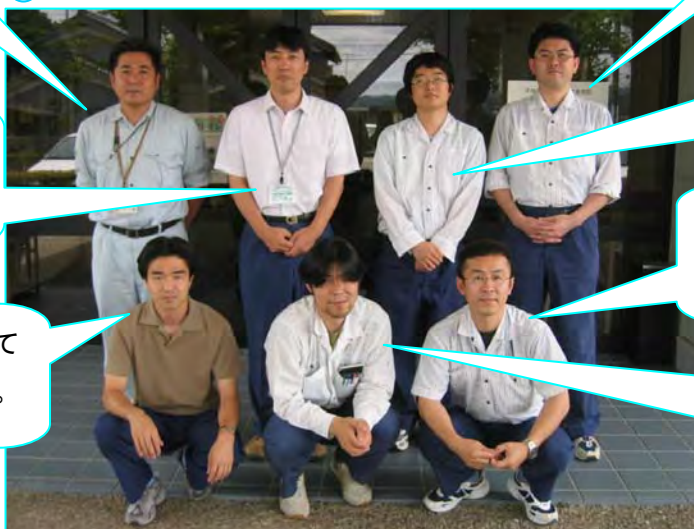
成体

建設所紹介② 《調査設計課》

現場技術員の
山市晃司です。

調査設計課長の
大原基秀です。

事業費を担当して
いる新見邦夫です。



ダムの計画や設計を担当している石橋一恭です。

今年入社した立石浩行です。「川上ダム通信」の記者もしています。

ダムの地質や計画を担当している中原忠義です。

水位・流量データの収集を担当している黒木裕次です。

連載企画

《第③話その2 都の水不足》

あおちかたこ 創作『阿保千方湖物語』

さっそく四天王は、それぞれの得意分野から知恵を出し、千方はそれらをねりまとめました。寝ることも忘れて議論し、山や川を調べ歩き、四日目の朝、ついに解決策を完成させました。その策とは、一つ：木津川上流にある川上の地に『^{どどいけ}百々池』よりもっと大きなため池（巨大堰）を造り、奈良の都へ送る水を蓄える。一つ：その位置は^{たかお}高尾からの川と、^{きりゅう}霧生からの川が合流する地点とする。一つ：ため池が地震で決壊せぬように、『^{かなめいし}要石』を大村神社に奉納し、地震防除の願いをかける。一つ：万が一に水が漏れた場合、土石流が集落を襲うことがないように『^{めおとし}夫婦石』を置く。一つ：大雨でため池に水が貯まるように『^{あまごいし}雨乞石』を置く、というものでした。

「一筋縄ではいかぬ壮大な策だが、事細かに計算され完全なものじゃ。実現のあかつきには都の隅々にまで水が潤い、それ以後の日照りにも効をを成すであろう」。水天王が満足げに言い、続けて千方が、「実行の詳細は書に記しておくから、そなたはこの文を持って都へ急がれよ」と使者にあらましを記した文書を手渡しました。使者は何度も御礼を言い、都へ急ぎ帰りました。（つづく） [川上ダム建設所編集]

EVENT

種生神社 おわたり

年に一度の例祭に本殿の神霊がおみこしにのって御旅所に渡御するいわゆる「わたり」の儀式。

種生神社の「わたり」は「こたつき渡御」というもので、むかし鹿島の神（種生神社の本来の祭神）が船で渡御した姿を移し伝えたものといわれ、伊賀では類をみないものです。

○日時／10月28日（土）～10月29日（日）

○場所／種生神社（伊賀市種生）

編集後記

9月下旬に「安全運転管理推奨像」引継式を行いました。今後も引き続き、飲酒運転の撲滅及び安全運転を徹底していきます。

【広報誌発行事務局】

編集長 恒吉 徹（川上ダム建設所長）
デスク 上村 信幸（総務課長）
" 北牧 正之（工務課長）
通信記者 武村 剛泰（総務課）
" 立石 浩行（調査設計課）

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆